
社 会 活 動

業績集 地域貢献諸活動

氏名：浅田 豊

実施年月：20140000

内容：H26年度内⇒ ピアレビュー実施及びピアレビューを受けること：ともに有り。

氏名：浅田 豊

実施年月：20141000

内容：青森県ホームページにコラム「何がコミュニティを構成するか」を發表し、青森県内外において、まちづくりへの機運を高めることを支援。

氏名：浅田 豊

実施年月：20140400

内容：今日の社会教育委員の役割を考察し、一定の新しい知見を示すとともに、社会において検討する題材を提供した。

氏名：浅田 豊

実施年月：20150000

内容：H27 ピアレビュー実施及びピアレビューを受けること：ともに有り。

氏名：浅田 豊

実施年月：20140600

内容：発達保障研究会の依頼に基づき、「対人『コミュニケーション』」の講義を実施。

氏名：井澤 弘美

実施年月：20140500

内容：野田村ボランティアに参加

氏名：浅田 豊

実施年月：20140600

内容：外部からの受講者への支援(正規教育内容以外含む)

氏名：石田 賢哉

実施年月：20140300

内容：第3分科会司会

氏名：浅田 豊

実施年月：20141000

内容：部会長として、実地調査研究(青森県内12団体対象)を立案計画・実施・評価等行った。

氏名：浅田 豊

実施年月：20141000

内容：NPO活動等に分類されるボランティアでの取り組みとして、ポスター発表の意義を提起するなど、青森県社会教育委員連合の理事会活動を通じ、研究大会の運営の質的向上等に貢献した。

氏名：石田 賢哉
実施年月：20140400
内容：青森労働局の労災精神障害専門調査員を担当

氏名：岩井 邦久
実施年月：20140500
内容：第7回大学は美味しい!!フェア, 2014/5/28～6/3, 東京都.

氏名：石田 賢哉
実施年月：20140500
内容：講師

氏名：岩井 邦久
実施年月：20140600
内容：発明・特許について -青森県立保健大学の知的財産活動-. 平成 26 年度第 1 回知的財産教育, 2014/6/10, 青森県立保健大学.

氏名：石田 賢哉
実施年月：20140800
内容：横浜市精神障害者地域生活支援連合会加盟事業所の新任職員を対象に「地域福祉の重要性」をテーマに講義をおこなった

氏名：岩井 邦久
実施年月：20140700
内容：キッチン☆保健大学「おいしい研究室 in アスパム」, 2014/7/5, 青森市.

氏名：石田 賢哉
実施年月：20140900
内容：青森県立保健大学 地域連携・国際センター
主催
演習担当

氏名：石田 賢哉
実施年月：20141200
内容：模擬講義担当

氏名：石田 賢哉
実施年月：20141200
内容：講義担当

氏名：石田 賢哉
実施年月：20150300
内容：SST 講師

氏名：岩井 邦久
実施年月：20140900
内容：地域コミュニティ手づくり講座第2回サロン
ほ・だあちゃ、支援, 2014/9/21, 青森市

氏名：岩井 邦久
実施年月：20141000
内容：平成26年度第2回知財教育・研修. IPDLを
用いた先行技術検索. 企画運営, 2014/10/7, 青森県
立保健大学.

氏名：岩井 邦久
実施年月：20141100
内容：おいらせ町味祭館, 販売支援, 2014/11/2, おい
らせ町

氏名：岩部 万衣子
実施年月：20140400
内容：〈事業名〉保育所発！子ども元気スリムプラン
事業
〈役割〉野菜もりもりバナナうんちで元気いっぱい
プランの助言
〈主催〉青森県・青森県保育連合会

氏名：織井 優貴子
実施年月：20140800
内容：日本医療教授システム学会 (ISISH) 主催 I
S D (Instructional System Design) 事例研究会
ファシリテータ

氏名：加賀谷 真紀
実施年月：20140600
内容：社会福祉主事資格認定講習会講師 介護福祉
論・分担・4時間 (青森県立保健大学)

氏名：川内 規会
実施年月：20141100
内容：平成26年度研修企画・実施助成申請の結果、
採用となり「第2回医療通訳養成研修」を実施した。
期間は2014年11月15日、16日、会場は青森県立
保健大学。対象者は青森県内のボランティア通訳者、
医療従事者、医療現場で通訳を経験したことのある
人、医療通訳に興味のある人とした。研修内容は、「知
識、技術、倫理」の基本的概念を理解してもらう事
を目的とした講義とワークショップである。

氏名：木村 恵美子
実施年月：20150400
内容：ユニフィケーション：2015年4月9,28日青
森県立中央病院
リンパ浮腫外来にて施術(CDP)を実施。

氏名：木村 恵美子
実施年月：20150500
内容：2015年5月29日
八戸市立市民病院のリンパ浮腫外来開設指導

氏名：木村 恵美子
実施年月：20150500
内容：ユニフィケーション：2015年5月14,25日
青森県立中央病院リンパ浮腫外来にて施術(CDP)
を実施。

氏名：木村 恵美子
実施年月：20150600
内容：2015年6月25日
つがる広域西北地区総合病院における
リンパ浮腫外来開設指導

氏名：熊谷 貴子
実施年月：20141100
内容：研究内容ポスター展示
氏名：小池 祥太郎
実施年月：20140600
内容：吸引技術 講師

氏名：木村 恵美子
実施年月：20150700
内容：ユニフィケーション：2015年7月16,23日
青森県立中央病院リンパ浮腫外来にて施術(CDP)
実施。

氏名：小池 祥太郎
実施年月：20140900
内容：留置針挿入のデモンストレーション 講師

氏名：木村 恵美子
実施年月：20150800
内容：2015年8月17日
八戸市立市民病院のリンパ浮腫外来開設後の
施術指導

氏名：小池 祥太郎
実施年月：20140900
内容：フィジカルアセスメント 講師

氏名：木村 恵美子
実施年月：20150800
内容：ユニフィケーション：2015年8月12,20日
青森県立中央病院リンパ浮腫外来にて施術(CDP)
を実施。

氏名：熊谷 貴子
実施年月：20140800
内容：研究内容ポスター展示

氏名：熊谷 貴子
実施年月：20140900
内容：「子どもを守る、パパとママの栄養学」連載 編集・執筆（青森県タウン情報雑誌 ふい〜らあ倶楽部 2013年9月～2014年9月）

氏名：坂下 智恵
実施年月：20140900
内容：平成 26 年度社会福祉主事資格認定講習会
精神障害者保健福祉論 講師

氏名：坂下 智恵
実施年月：20150300
内容：熊本大学精神科臨床セミナー
自殺対策研究会 2 講師

氏名：坂下 智恵
実施年月：20150300
内容：平成 26 年度市町村自殺対策担当課長のための
自殺対策塾
講師

氏名：笹森 佳子
実施年月：20140800
内容：青森市筒井地区社会福祉協議会における独居
高齢者の昼食会「はまなすの会」において、学生ボ
ランティアによるレクリエーション活動を支援した。

氏名：笹森 佳子
実施年月：20141000
内容：大学祭において青森県難病連の活動紹介や署
名・募金活動に関する支援を行なった。

氏名：笹森 佳子
実施年月：20141100
内容：鶴田町住民の健康増進を目指したイベント「い
のちのまつり」に保健大学として出展し、大学の PR
とともに、鶴田町民の健康づくりの貢献に努めた。

氏名：吹田 夕起子
実施年月：20141000
内容：＜事業名＞第 16 回アルツハイマーフォーラム
IN 青森
＜役割＞パネルディスカッションのコメンテーター
＜主催＞アルツハイマーフォーラム IN 青森・エーザ
イ株式会社
＜開催場所＞アピオあおもり
＜対象＞保健医療福祉従事者

氏名：吹田 夕起子
実施年月：20141200
内容：＜事業名＞日本認知症ケア学会東北地域部会
事例検討会
＜役割＞ファシリテーター
＜主催＞日本認知症ケア学会東北地域部会
＜開催場所＞アスパム
＜対象＞認知症ケア専門士、日本認知症ケア学会会
員

氏名：吹田 夕起子
実施年月：20150300
内容：＜事業名＞第 15 回青森高齢者ケア研究会
＜役割＞事業企画・運営
＜開催場所＞青森県立保健大学
＜対象＞保健医療福祉従事者

氏名：杉山 克己
実施年月：20140900
内容：県内の基幹型社会福祉協議会が実施している
地域福祉権利擁護事業における預かり物等の現物管
理の現地調査に同行し、助言等を行う。

氏名：千葉 敦子
実施年月：20150300
内容：企画運営を担当

氏名：戸沼 由紀
実施年月：20140400
内容：＜事業名＞若年生活習慣病予防検診業務
＜役割＞骨密度測定及び体組成測定
＜開催時期＞H26年4月～5月
＜開催場所＞南部町
＜対象＞中学生

氏名：戸沼 由紀
実施年月：20140500
内容：＜役割＞連絡員
＜開催時期＞H26年5月～H27年3月
＜開催場所＞弘前市医師会
＜対象＞青森県内看護師養成校教員

氏名：戸沼 由紀
実施年月：20141000
内容：＜役割＞グループ会員
＜開催時期＞H26年10月～H27年1月
＜開催場所＞青森中央学院大学
＜研究テーマ＞看護学生が看護師養成課程で学ぶ地域看護とは

氏名：沼田 祐子
実施年月：20140600
内容：【事業名】岩手県看護協会 新人研修
【役割】アシスタント
【主催】岩手県看護協会
【開催場所】岩手県看護研修センター
【対象】新卒者100名、新卒新人研修参加施設の教育担当者30名

氏名：沼田 祐子
実施年月：20140800
内容：【事業名】ケア付きねぶたじょっぱり隊
【役割】ケア付きねぶたプロジェクト委員
【主催】ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊実行委員会 青森県立保健大学地域連携・国際センター地域連携科
【開催場所】青森市
【対象】ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊参加者と家族

氏名：乗鞍 敏夫
実施年月：20140600
内容：『栄養素の消化と吸収（代謝）』
氏名：乗鞍 敏夫
実施年月：20150600
内容：基礎栄養学（エネルギー摂取量と消費量）青森県立三沢高校

氏名：廣森 直子
実施年月：20140000
内容：特定非営利活動法人 ドアドアらうんど・青森が運営する「ほ・だあちゃ」（就労継続支援B型）のカフェスペースにて開催した地域住民向けの講座の運営。2014年度は7/12、9/21、11/30、1/25の4回開催。

氏名：福井 幸子
実施年月：20140800
内容：ケア付きねぶたじょっぱり隊 ボランティア

氏名：細川 満子

実施年月：20140800

内容：〈事業名〉はまなすの会

〈役割〉レクリエーションの支援

〈主催〉青森市筒井地区社会福祉協議会

〈開催場所〉青森市中筒井分館、奥野市民館

〈対象〉地区の高齢者

氏名：三浦 雅史

実施年月：20140400

内容：障害児学童保育事業など

氏名：三浦 雅史

実施年月：20140400

内容：介護予防を目的とした住民参加型事業
施設開放（体育館等）

氏名：三浦 雅史

実施年月：20140500

内容：ボランティア

氏名：宗村 弥生

実施年月：20150100

内容：青森県教育委員会主催の協議会において、「喀
痰吸引などに係る研修のあり方」の講義をした。

氏名：村上 眞須美

実施年月：20140200

内容：理事

氏名：吉岡 美子

実施年月：20140700

内容：第 60 回全日本中学校通信陸上競技青森大会の
冊子の中で、メディカルコラムとして掲載されるコ
ラムのスポーツ栄養に関する指導媒体を担当。

氏名：吉岡 美子

実施年月：20140800

内容：青森県教育委員会事業の 1 つである「あおも
り型給食」献立の作成のための協力・

氏名：吉岡 美子

実施年月：20140900

内容：地域住民を対象に食育 SAT システムを使って
1 食分の食事のバランスをチェックし、結果に基づ
き、簡単なアドバイスを実施。

氏名：吉岡 美子

実施年月：20141000

内容：青森県の事業の一環であるだし活料理レシ
ピ集（給食施設用）作成協力。

氏名：吉岡 美子

実施年月：20141200

内容：平成 26 年度から始まった青森県の事業「味感を育む「だし活」事業において、県民への啓発リーフレット作成の協力。

氏名：吉岡 美子

実施年月：20150200

内容：青森県、秋田県、岩手県、宮城県のスポーツ栄養に従事および関心のある管理栄養士・栄養士および多職種を対象に研修会を開催し、来年以降も継続していくこととなった。

氏名：吉岡 美子

実施年月：20150200

内容：下北地域健康なまちづくり運動の 1 つとして下北教育事務所が制作したレシピ集の審査等の協力。

氏名：吉岡 美子

実施年月：20150300

内容：青森県教育委員会の事業の一環として制作された食に関する指導教材用の DVD 制作に向け、シナリオのチェック等の制作協力。

地域連携・国際センター一年報

I 認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）報告

1 セカンドレベル実施概要

平成 26 年度は、セカンドレベルの教育課程を開講した。

(1) 日程：第 1 クール 平成 26 年 6 月 19 日（木）～7 月 19 日（土）

第 2 クール 平成 26 年 8 月 21 日（木）～9 月 5 日（金）

(2) 受講生：28 名（修了者 28 名；県内 26 名、県外 2 名）

副看護部長等 3 名、看護師長等 23 名、主任看護師等 2 名

(3) 内容：

- ・カリキュラムは、「看護組織管理論」、「人的資源活用論」、「ヘルスケアサービス管理論」、「医療経済論」、「統合演習」の 5 つの教科目からなり、講義と演習で構成している。時間数は規定の 180 時間のほかに、コースガイダンス、レポートの書き方、プレゼンテーション等 12 時間を加え、計 192 時間であった。
- ・講師は、県内外の専門分野の教育・研究・実践者が担当し、学内教員の協力も得た。
- ・学習方法は、成人学習者として主体的に展開することを目指し、講義、演習、プレゼンテーションにより構成した。
- ・企画書のテーマは「自分が所属する組織における問題点を分析し、改善計画を立案する」とし、各自でテーマを設定して取り組んだ。

2 セカンドレベルフォローアップ研修

(1) 目的：自らが立案した組織の改善計画の実施を推進するとともに、セカンドレベル修了生の看護管理実践能力を向上させる。

(2) 内容：セカンドレベル終了後の実践状況報告およびコンサルテーション

(3) 開催日：平成 27 年 2 月 21 日（土）

(4) 場所：浅虫温泉 海扇閣会議室

(5) 参加者：平成 26 年度セカンドレベル修了者 27 名、演習支援者 8 名、その他 12 名 計 47 名

Ⅱ 研修科事業報告

平成 26 年度の研修科事業の概要

1 第 14 回地域包括ケア・フォーラム I N 青森

(1) 企画の背景

近年、厚生労働省を中心に行われた社会保障制度改革国民会議の中で、超高齢化、家族・地域に対応した制度への変革の方向性から、医療・介護分野の見直しが行われ、地域ごとの在宅も視野に入れた計画が検討されている。特に地域包括ケアシステムの構築については、介護予防・日常生活支援総合事業が、介護保険制度の地域支援事業の中で見直され、自治体が実施主体となり、平成 29 年 4 月までに実施することとなっている。

(2) 研修目的

実際にケアサービスを受けている方などからの提言をいただき、参加者のグループ討議をとおり、現在の地域包括ケアの課題を探る。

(3) 研修受講者

保健医療福祉専門職：96 名

(4) 開催日時および場所

平成 26 年 11 月 14 日（金）13：30～16：30
青森県立保健大学 A 棟 1 階 A111 教室

(5) 研修内容

テーマ「利用者・家族が望むケア・プランとは」

ア ミニ講義：講師：青森県健康福祉部健康福祉政策課 総括主幹 櫻庭仁明氏
「青森県における保健・医療・福祉包括ケアシステムについて」

イ 発表：「私たちの望むケア・プラン」

○青森県難病連 青森 SCD/MSA 友の会 会長 大柳俊子氏

○障害者自立センター 自立生活センター青森 代表 和田英人氏

○介護福祉士会 有料老人ホーム「ウエルステージ」相談員 藤井恵介氏

○若年性認知症の介護家族 認知症の人と家族の会青森県支部 前田美保子氏

ウ バズセッション

「利用者・家族が望むケア・プランに向けて、私たちができることとは」

(6) 研修の成果および評価

研修会終了後、アンケート調査を実施した。参加者 96 名のうち、81 名（回収率 84%）から回答をいただいた（詳細はアンケート結果参照）。講演の満足度は、「満足した」28%、「概ね満足した」45%、バズセッションの満足度は「満足した」23%、「概ね満足した」48%であった。今後の職務に「大いに役に立つ」35%、「少しは役に立つ」37%で、研修会の評価は概ね良好であった。理由としては、「研修内容が実務に結び付いていた」、「最新の知識研究内容だった」との評価が多数を占め、充実した研修会になったと言える。

検討すべき意見として、「各発表者の具体的な内容を聞きたかった」、「レジュメがあればもっと良かった」、「実務とかけ離れたものであった」などがあった。

(7) 反省点（次年度への改善点など）

受講者数は、前年度よりも21名多かったことから、テーマへの関心の高さが伺える。内容が事例や講師の体験談を踏まえたものだったため、「色々な立場の方々の話を聞くことができた」という声が多数あった。

一方で、より詳しく具体的な内容について聞きたいという要望も多かったことから、時間配分を次年度に向け検討していくべきである。また、アンケート結果に基づき、受講者の要望に応えるべく、シンポジウムの内容、運営方法等を十分に考慮し、今後もより良い研修会の開催に向けて検討していく。

2 静脈注射学び直し研修会

(1) 企画の背景・目的

平成20年度に文部科学省の委託事業として【医療安全にかかわる看護技術「静脈注射」の学び直しプログラム】を平成22年度まで3年間実施し、その後看護職からのニーズに対応すべく研修会開催の準備に取り掛かってきた。平成25年度に潜在看護師や新卒看護職を対象とした静脈注射の学び直し研修会を開催した。

今年度の本研修会対象者は、青森県内100床未満の病院または県内訪問看護ステーションに勤務され、輸液ポンプ・シリンジポンプ操作による速度管理の経験（または予定）があり、根拠に基づいた知識・技術習得を希望する看護職として開催した。

(2) 研修受講者

現役看護師 12名

(3) 開催日時

平成26年9月15日（月）祝日 9:20～16:00

(4) 場所

講義：A棟3階 演習室A6（305教室）

演習：基礎成人看護実習室

(5) 研修内容

ア 薬剤管理の基礎知識

イ 血管確保～抜針デモンストレーション

ウ 輸液ポンプ・シリンジポンプ使用の説明

エ 演習（血管確保、輸液ポンプ・シリンジポンプの操作、抜針）

(6) 研修の成果および評価

募集定員20名に対し8名少ない12名の申込者であったが、研修当日の欠席はなく開催した。

アンケートの集計結果をみると、受講者の殆どが自分の目的達成に役立ったと回答しており、中でも「血管確保から抜針（演習）」と「輸液・シリンジポンプの正しい使い方（デモンストレーション）」が多かった。

逆にもう少し知りたかったものとして、「静脈注射でよいもの、だめなもの、また混在してよいもの、だめなもの」、「薬剤に関して、静脈注射でよいもの、点滴でなければいけないもの」について聞いたかったという意見があった。

若干名ではあるが、物品や手技が初めてであったため緊張し難しく感じた、研修開催日を早く決めて案内してほしいという指摘に対しては検討する必要があると思われる。

(7) 反省点（次年度への改善点など）

早めに準備に取り掛かるために担当教員を早く決めてもらうこと、手伝う教員の顔ぶれが固定化してきていることから他の教員にも協力を要請すること、早めに計画を立てて案内送付先を増やすこと、県看護協会と共催という形で開催すること、裾野を広げる意味で初級編とすることを確認した。

3 研修企画・実施助成事業

県内の保健医療福祉専門職を対象とした研修企画を募集し、助成を行った。採択された研修企画については事業実績報告書参照のこと。

4 教育改善研究助成

本学の教育方法等の改善に資するための研究課題を募集したが、今年度の応募はなかった。

5 ブックレット作成事業

本学教員の研究成果を県民に還元することを目的として、継続的な小冊子の発行を募集し、助成を行った。

採択されたブックレット作成事業については事業実績報告書参照のこと。

青森県内ボランティア通訳者対象「医療通訳養成研修」

川内規会¹⁾、小笠原メリッサ¹⁾、北村広美²⁾

1) 青森県立保健大学、2) 多文化共生センターひょうご

1 企画の背景

日本では統一された医療通訳の資格が整っていないことや、医療通訳がボランティアに依存していること、医療通訳者の養成が地域により異なり、統一されたレベルが確保されていないこと等が問題視されている。本県も医療通訳に対する認識と養成の機会が不足しており、病院側・患者側双方が通訳の現状を知らずに、将来的な方向性を見いだせないでいる。

本研修は、県内の医療者、ボランティア通訳者、医療現場の通訳に興味のある人を対象に、県内の外国人の背景や通訳事情を学び、通訳者の現状の課題を共有し、医療現場に対応できる知識と通訳技術、倫理などの基本を学ぶことをねらいとして企画した。

2 研修目的

本研修は青森県内で活躍しているボランティアの通訳者に、医療通訳に必要な「I 知識 II 技術 III 倫理」のそれぞれの基本的概念を知ってもらうことを目的とし、将来的に県内の医療現場で活躍できるように医療通訳者を養成することを目指したものである。特に、一般的な通訳業務と異なり医療という専門的な分野では、必要とされる力が語学力のみではないことを再確認してもらい、医療者と外国人の双方を助けられるように医療の通訳業務が円滑に実践できる基本的能力をつけてもらうことを目指した。

3 研修受講者

職種：県内の医療者（看護師、医療検査技師）、病院事務、医療現場の通訳経験者、医療の通訳に関心のあるボランティア通訳者など

受講者数：修了者数 18 人（2 日間の延べ参加者数 36 人）

4 開催日時および場所

日時：2014 年 11 月 15 日(土)、16 日(日)の 2 日間 9:30~17:30（12:30~13:30 昼食休憩）

場所：青森県立保健大学 1F A107

5 研修内容

講師は学外から多文化共生センターひょうごの北村広美代表、学内から川内規会准教授、小笠原メリッサ助教の 3 名が担当した。講義内容は「在日外国人の背景、医療上の問題、社会制度、青森県の通訳事情、通訳者の心構え、倫理」等を扱い、実習として「医療現場のロールプレイ、場面別の会話練習、聞き取りとメモ取り」を行い、ワークショップでは「現状の通訳の課題に関する意見交換、将来的プラン作り」を実施した。

6 研修の成果および評価

研修目的の「知識、技術、倫理」の基礎的概念を理解してもらう事は達成できたと評価する。また、社会的にも意義あるものであり、本研修への期待が地域社会にも根ざしていることが感じられた。参加者からの評価は高く、今後への継続と期待が強く感じられ、研修成果が十分にあったと評価する。具体的には、参加者に社会で活躍するための気づきの機会を与えられた点と、県内の外国人の背景や医療者の現状を把握してもらい、医療通訳の技術のみならず、倫理的・社会的に何が必要であるかを理解してもらえた点があげられる。多くの参加者が、通訳の基本的知識を学んだことやもっと勉強しなくてはならないという反省と意気込みが見られたことから、参加者の将来的な活躍につながられるよう今後も協力していきたい。

7 その他（改善検討事項、特記事項など）

継続的発展性も期待されており、今後に向けて対象者や研修内容等を再検討し、社会貢献として継続していきたいと考えている。

青森県における精神障害者ピアサポーター養成の基盤作りに関する研修

企画提案・実施者 石田賢哉¹⁾ 相川章子²⁾ 川村有紀³⁾

1) 青森県立保健大学 2) 聖学院大学 3) 相談支援事業所てれんこ

1 企画の背景

精神保健福祉領域ではピアサポート活動は精神保健福祉施策の重要な柱の一つであり、全国的な広がりを見せている。しかしながら青森県内の精神保健医療福祉領域の精神保健福祉士等にピアサポート活動について聞いてみると「青森にはピアサポートを担う人材がない」「まだ人材が育っていない」という声をよくきく。青森県内ではピアサポーターを養成する基盤がまだ確立しておらず、ピアサポーターに接する機会自体が乏しいことや、一部の当事者が回復者クラブや自助グループなどでピア活動をしている段階にとどまっており、青森県ではまだピアサポート活動は広がりを見せてはいない。そこでピアサポート活動、ピアサポーターの基本的理解を目的に、精神障害のある当事者、精神保健福祉士等を対象に研修を実施した。

2 研修目的

研修目的は以下の3点である。①青森県内の精神保健福祉士がピアサポーターの役割やピアサポート活動の実際、ピアサポーター養成についての基礎的理解を深めること、②青森県内の精神保健福祉士がピアサポーター養成の基盤作りにおいてどのような役割を果たすべきかを学習すること、③青森県内においてピアサポーター養成のシステムを導入するにあたり、具体的にどのようなことをしていく必要があるか情報を共有すること。

3 研修受講者

職種：当事者 2 名 支援者 13 名 運営スタッフ 3 名、学生 2 名

受講者数：修了者数 20 人

4 開催日時および場所

平成 26 年 8 月 3 日 9:00~16:00 保健大学 B 棟 B110

5 研修内容

- ・青森県の精神保健医療福祉の現状、ピアサポート事業の実際 主担当：石田
- ・ピアサポーターに期待される役割、ピアサポーターの世界水準について主担当：相川・ピアサポーターとしての実践活動 主担当：川村（補助石田）
- ・グループディスカッション
青森県にピアサポーターが根付くためには何が必要か
主担当：石田・適宜、相川先生、川村さんからアドバイス
- ・BBC メンバーがグループのファシリテーターの役割を担う。

6 研修の成果および評価

研修終了後の一人ひとりのコメントからは当事者、支援者双方からピアサポーターの可能性に関するコメントが多くみられた。また、研修に関するアンケートでは、青森におけるピアサポート活動に関する評価について数名の肯定的な変化がみられた。特に、ピア活動をしたい当事者が多いという質問について、研修前に「そう思う」と回答したのは 4 名であったのに対し、研修後には 13 名に増加していた。また、平成 27 年度には青森市において地域活動支援センターを中心にピアサポート活動に関する研修が開催される予定となっており、ピアサポート活動に関する研修は継続的におこなわれることになっている。

7 その他（改善検討事項、特記事項など）

特になし

知って防ごう、受けて防ごう、子宮頸がん

- 婦人科受診はちょっと・・・不安なあなたの健康を守るために -

松尾 泉¹⁾

1) 青森県立保健大学

1 要旨

女性のがんの中でも、子宮頸がんは原因となるヒトパピローマウイルスの感染と発症機序が明らかで、がん検診受診によって早期発見・予防が可能ながんである。しかし、がん検診受診率は低迷し、近年 20～30 代の女性の罹患率が上昇している。この理由として、子宮頸がん検診に関する知識が不足していること、診断に必要な、婦人科受診や男性医師から内診を受けることへの心理的な抵抗・羞恥心が強いことが明らかになっている。これらのことを踏まえ、受診にいたる知識・態度を付与するため、本ブックレットを作成した。

構成は知識編と受診編、計画立案編に分けて、読者の関心の高い部分から読み始められるよう配慮し、内容は子宮頸がんの知識・受診方法と重要性、受診計画立案に関する理解が進むよう、わかりやすい言葉、簡潔明確な図表を配置した。内容をわかりやすく記載することで、対象者が主体的に子宮頸がん検診について学べるだけでなく、綴じ込みハガキの活用により、具体的な受診計画を立案し、受診の個別勧奨効果を高められる。さらに、ブックレットを契機に家族や友人とがん予防についての関心を高める効果が期待される。

2 冊子の体裁

カラー刷り A4 版冊子 14 ページ

綴込みハガキ 1 枚

3 活用方法（配布先・配布部数も含めて記載してください）

主たる活用方法は、教育機関・地域における健康教育・社会教育の資料である。作成者が教育教材として活用するだけでなく、県内の主要な子宮頸がん検診実施施設・市町村保健センターに留置くことで、該当者や関心を持った者に向けた勧奨教材として活用する。

(1) 県内の医療保健福祉職、本学科臨地実習指導者 (300 部)

(2) 県内の主要な子宮頸がん検診実施施設、市町村保健センターにおいて子宮頸がん検診を受診する対象者、地域の社会教育講習受講者 (500 部)。

(3) 県内で開催される医療保健福祉系の研修会参加者 (200 部)

Ⅲ 国際科事業報告

米国ベレノバ大学との交流事業

1 経緯および実施状況

2014年5月11日(日)から17日(土)の7日間、米国ペンシルバニア州のベレノバ大学 (Villanova Univ.) から、8名の看護コースの研修生と2名の教員が来青し、学生や教員と交流を持ちながら、日本の看護教育や地域医療、日本の文化を学んだ。

本学とベレノバ大学が交流提携を結んで以来、継続的に来学していた研修生だったが、2011年の来学予定の年に東日本大震災に見舞われ、それ以降、来日が延期になっていた。今年度の訪問は2009年以来であり、5年ぶりの受け入れとなった。本学のボランティア学生や看護学科教員等の受け入れ体制ができ上がり、ベレノバの研修生や引率教員を迎えることができ、本学の学生・院生・教員との交流を深める事ができた。お互いの国の医療事情や文化的背景が学べる貴重な機会となった。

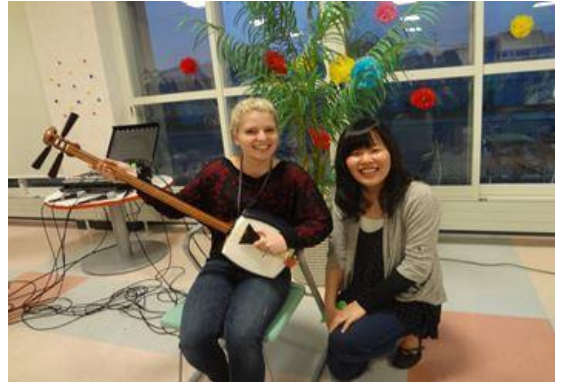
2 研修内容

日時	時間	行程
5/11 (日)	14:43 新青森駅着	お迎え 入寮オリエンテーション
	17:30	ボランティア学生や教員と夕食
5/12 (月)	10:00	学長表敬訪問
	11:00	学内見学 (オリエンテーション、交流ランチ)
	14:10-15:30	学内講義 1 「日本の看護基礎教育」 (藤本真記子准教授) 2 「日本の文化と言語の理解」 (川内規会准教授)
	15:40-17:00	学生交流会 (両大学の学生によるプレゼンテーション)
	17:30-19:00	ウエルカムパーティー
5/13 (火)	10:00-11:40	浅虫ヘルスプロモーション講義、活動視察
	11:40-15:00	浅虫フィールドワーク
5/14 (水)	9:00-11:00	三内丸山遺跡見学 (学生交流)
	14:10-15:30	看護学科 FD “Evidence Based Strategies to Prevent Obesity.” (Marcia Costello 准教授)
5/15 (木)	10:00-12:00	杖なし会交流 (地域住民との交流)
	14:00-16:00	青森県立中央病院見学 (NICU、救急・ドクターヘリ等)
5/16 (金)	午前	自由時間
	14:30	反省会、退寮説明会 (ディスカッション他)
	15:40-16:40	さよならパーティー
5/17 (土)	8:40	大学出発

3 交流事業報告書

「交流事業報告書 青森県立保健大学・ベレノバ大学 2014」を作成した。本学の交流に参加した学生やベレノバ大学の研修生からの生の声を載せており、研修生や本学の学生からは高評価であった。詳細は報告書をご覧ください。

(担当者：看護学科 川内規会)



韓国仁済(インジェ)大学校との日韓国際交流報告

1 仁済大学校物理治療学科から本学へ

(1) 来学者：物理治療科 4 年生 2 名

金 玫志 (キン ミンジ) 女性

李 奈映 (イ ナヨン) 女性

*引率教員：7/9(水)～7/11(金)

吳 在燮 (オ ジェショッ) 男性

(2) 研修概要

期間：平成 24 年 7 月 9 日(水)～8 月 8 日(金)の約 4 週間

日程：7/10(水)～7/18(金) オリエンテーション、病院・施設見学および学内で授業参加

7/22(火)～8/1(金) 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターで研修、学内研修

8/5(火) 修了式 8/8(水) 帰国

宿泊：本学ドミトリー

(3) 次年度の検討事項

- ・ドミトリーへの要望：調理器具の確保とキッチンの使用について意見があった。次年度より、シャワーのタイムテーブル、キッチン・トイレ・ランドリーなどに関する使用方法について利用者全員に詳細な説明が必要。部屋のエアコンがなくて暑かった。
- ・通訳に対するオリエンテーションの実施：服装・マナー、専門用語の事前学習強化(用語集の配布)。次年度も通訳ボランティアの確保が重要。
- ・弘前脳卒中・リハビリテーションセンターでの研修日程：実施期間は良い(実質 6 日間)。次年度も 7 月中旬～下旬の水・木・金/月・火・水の 6 日間で検討予定。

(4) 研修学生の感想

- ・国際交流や研修内容については非常に満足している。とくに、介護保険が進んでいる日本の医療については興味深い。
- ・施設などの見学先では介護保険を使って高齢者がゲームやカラオケなどを行っていることをみて驚いた。
- ・日本では物理治療(電気、水治療など)が行われないのか不思議であった。
- ・日本の理学療法学科カリキュラムでは、生理学実習や ADL 実習など専門科目の実習が多いのが良いと思った。
- ・日本学生との様々な交流(たこ焼きパーティ、ボーリング、花火、ねぶた祭りなど)は非常に良かった。
- ・日本学生の家へ招待され、学生の生活を見たのは面白かった。
- ・温泉などの日本文化の経験は面白かった。



2 本学理学療法学科から仁済大学校へ

(1) 訪韓者：理学療法学科3年生2名

3年：相川知咲（アイカワ サキ）、奥山千尋（オクヤマ チヒロ）

*引率教員：往路8/29(金)～9/3(水)神成教授 復路9/10(水)～9/14(日) 李講師

(2) 研修概要

期間：平成24年8/29(金)～9/14(日)の約2週間

日程：8/29(金) 青森→ソウル→釜山へ 8/30(土)～8/31(日) インジェ大学校見学等

9/1(月)～9/4(水) 附属白(パク)病院での研修

9/5(木)～9/10(水) インジェ大学校で授業参加&学生と交流

9/11(木) 釜山→ソウルへ移動 9/12(金) ソウル市内で身障者センター見学等

9/13(土) ソウル市内文化施設見学 9/14(日) ソウル→青森へ

宿泊：8/29(金)～9/10(木)：仁済大学校ドミトリー

9/11(木)～9/13(土)：ソウル市内ホテル

(3) 次年度の検討事項

- ・2014年の国際交流では、実施時期が韓国の長期間の祝日（秋夕：日本のお盆に相当）と重なり、釜山での日程調整に大きな影響が生じた（2014年度の秋夕は例年より早かった）。次年度からは、韓国の祝日や行事を考慮して日程を作成する必要がある。

(4) 本学学生の感想

- ・パク病院では大変親切に見学・実習させてもらい、とても勉強になった。もう少し病院の実習が長くてもよいと思った。
- ・インジェ大学校の教員・学生にも大変よくしてもらい、楽しく充実した2週間を過ごせた。しかし、韓国の長期間の祝日（秋夕）期間中は、韓国学生達が実家に戻り、ドミトリーの生活が寂しかった。
- ・ソウルの障害者支援センターでは、特殊な器具や設備の見学ができて、とてもよかった。また、障害者に対する意識の違いも勉強になった。



(担当者:理学療法学科 李相潤)

国際科講演会

【アジアパシフィック小児看護協会理事長 スザンナ・リー氏 講演会】

《開催日》 平成 26 年 6 月 23 日 (9:30~11:00)

《内容》 Hong Kong よりアジアパシフィック小児看護協会理事長 スザンナ・リーを招待し「Child Health in Hong Kong」をテーマに講演を行った。講演内容は、国際的な視点から子どもの健康への取り組みの一例として、Hong Kong における小児の健康福祉施策や社会環境の影響、小児肥満などについてである。

加えて、インターネット依存の予防や小児保健の促進など教育的・予防的観点から講演を行った。

《来場者》 看護学科 3 年生 100 名

(担当者:看護学科 伊藤治幸)

【インジェ大学校 吳在燮 (OH JAE SEOP)博士 講演会】

《開催日》 平成 26 年 7 月 10 日 (木) 17:10~18:30

《内容》 インジェ大学校医生命工学大学物理治療科の吳在燮 (OH JAE SEOP) 博士による講演が行われた。内容は『Clinical study of lumbo-pelvic rhythm Focused on patient transfer』というもので、移乗動作中の骨盤と腰椎の運動リズムに関するものであった。多くの理学療法学科学生が耳を傾けた。

(担当者:理学療法学科 長門五城)

【国際協力市民公開講座における講演会】

《開催日》 平成 26 年 10 月 11 日 (土) 14:30~15:30

《内容》 学生に国際協力について知ってもらうため、JICA 東北との共催で県南部在住の山本綾子さん(理学療法士)に、『理学療法士が見た未知の国 パナマの魅力』というタイトルで大学祭期間中に講演して頂いた。

(担当者:理学療法学科 長門五城)

【「ヒューマンケア 一癒すひと、癒されるひと」講演会】

《開催日》 平成 26 年 12 月 13 日 (土) 13:00~17:15

《内容》 第 1 部 ハマドベリーダンス (青森市) のメンバーによる演舞、楽器演奏及び講話

第 2 部 講演① 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス部教授 谷岡 哲也氏

『メイヤロフのケアリング理論とボイキン・ショニファーの看護としてのケアリングーケアすること、他者を理解すること』

講演② 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス部教授 ロッツアーノ・C・ロクシン氏

『看護ケアにおけるケアリングとしての技術的能力』

開催日当日は、あいにくの天気 (大雪) に見舞われたが、県内大学生・高校生及び教職員、県内医療機関及び老人福祉施設従事者、一般市民の方々の参加があり、無事、講演会を開催することができた。第 1 部の中東におけるベリーダンスに関わる講話、実演については、異文化を理解し受け入れていくための一助となる機会であった。第 2 部の徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス部教授 谷岡 哲也氏、ロッツアーノ・C・ロクシン氏の講演は、一般の方々には少し難しい内容ではあったが、将来、医療福祉関連の職業を目指す高校生にとっては目指す職域の一端を垣間見ることができたのではないだろうか。医療機関等に従事されるの方々には有意義な講演内容であり、講演会終了後も質問等がなされていた。今回は、これまでにない講演の組み合わせではあったが、講演会テーマである「ヒューマンケア 一癒すひと、癒されるひと」を体現できていたのではないかと思われる。其々分野の違う方々であっても、本気の取り組みというものは融合しうるものであることを実感させられた講演会であった。

(担当者:理学療法学科 長門五城)

国際協力市民公開講座

開催日:平成 26 年 10 月 11 日、12 日 10:00～16:00

場所:青森県立保健大学 B 棟 B109 教室

【講座内容】

写真展 [パナマやシリア、国際緊急援助隊の活動] (10 月 11 日、12 日両日開催)

講演会(10 月 11 日 14:30～15:30) 講師:山本綾子さん(理学療法士) 演題:『理学療法士が見た未知の国 パナマの魅力』

【講演会について】

講演会には、大学祭の来場者が少ない中、学生 7 名、一般 6 名:合計 13 名の参加がありました。講師の方の話がすばらしかったせいでしょうか、例年になく、学生からの質問が数多くありました。国際協力や海外で働くことを考える機会になったと思います。一般の方からは、“講演会の回数を増やして欲しい”、“初めて来たが、とてもよかった”等のご意見を頂きました。

【写真展について】

2 日間の写真展について、全入場者数はカウントしきれませんでした。昨年より大学祭への来場者が少なかつたにもかかわらず、2 日間で 300 名以上の方にご来場頂きました。アンケートには 147 名の方から回答がありました。開催しての印象ですが、写真展には、一般の方のリピーターが意外に多くいらっしゃるようでした。また、学生も含め、海外ボランティアについて強い興味を示される方々が、今年は多かつたように感じました。



講演会



写真展

【アンケート結果】 ※アンケート回答人数 147 名 (来場者 300 名以上)

1 おもしろかったもの (複数回答可)

- ・写真展 (パナマ/シリア/国際緊急援助隊) (156 人) ・民芸品展示(59 人) ・JICA 資料等(35 人) ・無回答(0 人)

2 途上国の現状や国際協力について理解が深まったか

- ・深まった (50 名) ・やや深まった (91 名) ・よく分からない (4 名) ・分からない (0 名)

3 このようなイベントがあったほうが良いか

- ・いらぬ (0 人) ・どちらとも思わない (4 人) ・あったほうがよい (139 人) ・無回答 (4 人)

4 途上国に行きたいか

- ・遊びに行きたい (54 人) ・仕事で行きたい (44 人) ・その他 (27 人) ・無回答 (22 人)

その他の理由:

- ・ボランティアで (5 名) ・考えたことがない (2 名) ・学校行事として行きたい ・東南アジアであれば行ってみたい ・研究で行きたい ・情報は欲しいが行きたいとは思わない ・行きたいが言葉、習慣などの問題、時間的余裕をクリアにできないので今は行けない

5 その他の意見

- ・パナマの赤ちゃんが可愛い。

- ・パナマにもガーフィールド（キャラクター）がいることを知った。
 - ・いろんな人がいて大変だと思った。
 - ・とても興味深かった。
 - ・いろんな写真があって面白かった。
 - ・パナマに行ってみたいと思った。
 - ・講演の内容が楽しかった。（2名）
 - ・青年海外協力隊に参加してみたい。
 - ・展示品に触れるのがいいと思った。
 - ・パナマでも理学療法士が学んでいるということを知った。
 - ・民芸品や写真が綺麗だった。（4名）
 - ・普段知ることの出来ない内容なのでとても良かった。このような活動を機会があればしてみたいと思った。
 - ・若い世代に広げていけるように、このような活動を広げてほしい。視野を広げる機会になった。
 - ・医療処置を施している写真が特に印象深かった。
 - ・去年よりも開発途上国の医療についての写真や国際緊急援助の展示があって良かった。
 - ・面白かった。
 - ・学祭でこういった展示があるのは良いと思った。
 - ・内容の深い展示だった。
 - ・シリア難民の子ども達はもっとボロボロの服を着ていると思っていたが、以外に笑顔が多いことに驚いた。しかし住居は住める感じではないと思った。これから募金やボランティアをしたい。
 - ・通学路が険しい山道だという写真が印象に残った。日本がいかに恵まれているかが分かった。
 - ・国際協力の現場や状況の一部が端的に示されている為、初めて見る人達に伝えたいメッセージが伝わりづらい。
- 中心になるコンセプトやテーマがあってもよいのでは？
- ・世界人類が平等な生活ができるよう活動を続けてほしい。
 - ・海外に移住している友人がいる為、災害のニュースが気になる。
 - ・初めて来たがとても良かった。
 - ・どのように生活して、何を食べているのか知りたい。
 - ・パナマの自然を守る為にも温暖化を止める為に少しでも多くの人ができることを始めるべき。
 - ・教育を保障するのは国連中心の人道援助が必要。
 - ・民芸品を販売してほしい。
 - ・体験者の公演を1日2回実施してほしい

(担当者:理学療法学科 長門五城)

国際科委員会 学生ボランティア活動

【ベレノバ大学 歓送迎会】

《開催日》 ウェルカムパーティー：平成 26 年 5 月 12 日（17:30-18:30）
さよならティーパーティー：平成 26 年 5 月 16 日（15:40-16:40）

《内 容》 ベレノバ大学の学生および引率教員のおもてなしの一環として、ウェルカムパーティーおよびさよならティーパーティーを実施した。協力学生は看護学科の学生を中心に理学療法学科、社会福祉学科の学生 1 年生から 4 年生が協力しパーティーの企画・準備・実施を行った。当日は、両パーティーとも学生、教員含めて 50 名程の参加があり盛大に終了した。



（担当者：看護学科 伊藤治幸）

【インジェ大学校 交流会】

《開催日》 平成 26 年 7 月 11 日（金）18:40～

《内 容》 大学間交流の一環で本学へ研修にやってきたインジェ大学校医生命工学物理治療科学生 2 名の歓迎会が、上記日程で、交流センターにて開催された。理学療法学科 3 年有志が主担当となり、サポートは理学療法学科教員（主に福島助教）が担当した。毎年、少ない予算をやり繰りして、精一杯の“おもてなし”をしており、国際科委員会からは飲食以外の準備に必要な文具関連等費用のサポートを頂いています。今年は主に 1～3 年の理学療法学科学生と国際科及び理学療法学科に関連する教職員が参加致しました。



（担当者：理学療法学科 長門五城）

国際科委員会 研修発表と冊子作成

【インジェ大学校研修学生報告会】

《開催日》 平成 27 年 1 月 6 日（火）13:30～14:00 会場：B 棟 1 階 B111 教室

《発表内容》 『韓国インジェ大学校との国際交流報告』というタイトルにて、研修に参加した理学療法学科 3 年相川知咲さん、奥山千尋さん両名による報告が行われた。韓国の大学や病院での研修を通して、日本との文化や学ぶ環境の相違について詳細に報告された。

※冊子について、今年度行われた報告会がインジェ大学校研修報告のみのため、冊子作成は行わない。
(インジェ大学校交流報告書と重複するため)

(担当者：理学療法学科 長門五城)

国際科委員会 英語教員の地域交流

【English Cafe】

《開催日》 平成 26 年 8 月 8 日（金）12:00～15:00

《内容》 English Café was held during the annual Open Campus at Aomori University of Health and Welfare. 4 English teachers spoke in English with students from various Junior and Senior high schools. Drinks and snacks were served to create a café-style experience. It was a relaxed atmosphere in which students chatted about their hobbies, family, school and other topics close to them.

(担当者：栄養学科 メリッサ小笠原)

IV 社会福祉研修実績

研 修 名	時 期	日数	受講 実績	会 場
社会福祉行政新任職員研修	4/14	1	20	青森県立保健大学
老人福祉施設新任職員研修	4/28	1	116	青森県立保健大学
保育所新任保育士研修	5/13	1	133	青森県立保健大学
障害児・者福祉施設新任職員研修	5/14	1	153	青森県立保健大学
高齢者支援セミナー	6/9,6/23	2	60	青森県立保健大学
社会福祉施設職員経理研修(保育所)	6/24	1	79	青森県立保健大学
社会福祉施設職員経理研修(保育所以外)	6/25	1	111	青森県立保健大学
保育所セミナー	7/1	1	56	青森県立保健大学
社会福祉行政職員セミナー	7/4	1	13	青森県立保健大学
食の安全セミナー	7/8	1	212	青森県立保健大学
社会福祉施設職場研修担当者研修	7/24~7/25	2	26	青森県立保健大学
社会福祉トップセミナー	8/24	1	131	青森県立保健大学
社会福祉施設中堅・指導的職員研修	9/3、9/8、9/9	3	29	青森県立保健大学
子ども・家庭福祉担当職員セミナー	9/16	1	49	青森県立保健大学
社会福祉施設看護職員研修	9/19	1	75	青森県立保健大学
保育所新任保育士フォローアップ研修	9/22	1	69	青森県立保健大学
生活保護従事職員・査察指導員研修	10/10	1	9	青森県立保健大学
障害児・者支援セミナー	10/24	1	41	青森県立保健大学
社会福祉援助技術研修	11/7,11/21	2	57	青森県立保健大学
カウンセリング研修(初級)	11/27	1	62	青森県立保健大学
カウンセリング研修(中級)	11/28	1	26	青森県立保健大学
セーフティネットフォーラム	2/26	1	49	青森県立保健大学
社会福祉主事資格認定講習会	5/26~11/26 (実習期間含む)	54	55	青森県立保健大学
		81	1631	

V 平成26年度公開講座実績

基本テーマ：生活と健康

年度テーマ：人とのかかわり

回	月	日	曜	講 師	職 名	講 演 テ ー マ	参加者/年間
1	5	24	土	浅田 豊	栄養学科 准教授	家庭・学校・地域において子どもを守り育てる体制と教育課題～いじめの心理・メカニズムと克服に向けた方略～	401
				入江 良平	社会福祉 教 授	人さまざまーユングの性格論、自分と他者を「理解」するための手がかりとして	
2	6	7	土	中畑 年子	認知症の人と家族の 会 <small>青森県支部副代表</small>	義母の対応から学んだもの	352
				工藤 英明	社会福祉 講 師	認知症の人を支えるために～上手な介護サービスの使い方・認知症の人へのかかわり方～	
3	6 ※	21 下	土 北	福島 真人	理学療法 助 教	手足に障がいのある子どもたちの日常生活を 支援する	90
				大井 けい子	看護学科 教 授	成熟期の女性の健康とセルフケア ー自分の心身を理解し、整えるー	
4	7 ※	5 安	土 方	橋本 淳一	理学療法 助 教	体調不良を予防する ー健康体操（ストレッチ）ー	105
				藤田 修三	栄養学科 教 授	「もち小麦」の食品機能性と高齢社会	
5	7	19	土	川内 規会	看護学科 准教授	現代社会のコミュニケーション傾向 ～今、求められているコミュニケーションって何？～	250
				上泉 和子	理事長 学 長	【基調講演】地域すこやか力の向上を目指して ～大学が目指す地域貢献～	

1,198